

科目番号: 54

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	成人看護学概論				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論(医学書院)					
厚生の指標 増刊 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)					
目的					
成人期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴と健康の維持・増進及び健康障害の回復に抜けた援助の必要性を理解し、あらゆる健康レベルにある成人に看護を展開できる知識、技術、態度を習得する。					
目標					
1. 社会的役割と変化する発達課題を持つ成人各期の対象を理解できる。					
2. 成人各期の健康問題の特徴や動向を理解できる。					
3. 成人期に特有な生活習慣病とその現状、保健活動を理解できる。					
4. 成人期の人々の特徴をとらえたセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	成人の特徴と生活				講義
2	成人を取り巻く環境と生活からみた健康				講義
3	成人における健康の保持・増進や疾病の予防(生活習慣)				講義・演習
4	成人における健康の保持・増進や疾病の予防(ストレス)				講義
5	成人における健康の保持・増進や疾病の予防(職業関連)				講義
6	学習の特徴と看護(アンドラゴジーモデル、エンパワメント)				講義・演習
7	学習の特徴と看護(オレム、セルフマネジメントモデル)				講義・演習
8	成人への看護アプローチの基本(生活の中で健康行動を生み育む援助)				講義・演習
9	成人への看護アプローチの基本(健康課題を持つ大人と看護師の人間関係、病みの軌跡)				講義・演習
10	成人への看護アプローチの基本(人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ)				講義・演習
11	看護実践における倫理的判断				講義
12	意思決定支援				講義
13	家族支援				講義
14	ヘルスプロモーションと看護				講義
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験90%、課題学習10%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 55

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	急性期における生命維持を支える看護				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					認定看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		看護師
					認定看護師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器(医学書院) 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院) 別巻 救急看護学(医学書院) 倉橋順子 他著 はじめての手術看護 -カラービジュアルでみてわかる! 第1版(メディカ出版)					
<b>目的</b> 急性症状および、生命の危機的状態にある人の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について学ぶ。手術、検査、薬物療法などの身体侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について学ぶ。					
<b>目標</b> 1 急性期看護の特徴を理解できる。 2 急性症状および、生命の危機的状態にある人の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解できる。 3 手術・検査・薬物療法などの身体侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	生命の危機状態にある成人とその家族の特徴) クリティカルケアの基本				講義
2	循環不全のある人の看護(急性心筋梗塞、狭心症)				講義
3	循環不全のある人の看護(急性心不全)				講義
4	集中治療看護(ICUの概要・看護、人工呼吸器装着による看護)				講義
5	集中治療看護(循環器系に必要なME機器の装着中の合併症と看護)				講義
6	救命救急処置				講義・演習
7	救命救急処置				演習
8	術前からの看護(手術の意思決定/術後合併症のリスクアセスメント/ボディイメージの変容への援助)				講義
9	手術室看護師の役割(手術看護とは/手術室看護師の役割、間接介助・直接介助)				講義
10	術中の看護(手術方法による影響/手術体位による影響/麻酔の影響/安全管理)				講義
11	術後の看護(生体反応/疼痛管理/創傷管理/ドレーン管理)				講義
12	術後の看護(意識レベル・呼吸・循環・消化器系合併症・術後精神状態・代謝・内分泌合併症)				講義
13	術後合併症の予防と看護、回復を促進する援助、日常生活の自立への援助				講義
14	化学療法・放射線療法の看護				講義
15	試験、まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b> 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					

科目番号: 56

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	セルフケアの再獲得を支える看護				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経(医学書院) 成人看護学〔9〕 女性生殖器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器(医学書院) 成人看護学〔13〕 眼(医学書院) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院)					
<b>目的</b> 生活者としての成人を主軸として捉え、セルフケアの再獲得の必要性について学ぶ。可逆的・不可逆的な障害をもち、セルフケア再獲得を余儀なくされる人への看護について学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 生活者としての成人を主軸として捉え、セルフケア再獲得の必要性について理解できる。 2. 可逆的・不可逆的な障害をもち、セルフケアの再獲得を余儀なくされる人への看護について理解できる。 3. リハビリテーション看護の概念を理解し、その人らしい生活の再構築への看護が理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	成人におけるセルフケアの必要性和再獲得について(セルフケア低下と再獲得)				講義
2	セルフケア再獲得を必要とする成人への看護				講義
3	リハビリテーション看護とは(障害とは、リハビリテーション看護の役割)				講義
4	機能障害をもち成人の身体的・心理的・社会的特徴と看護(機能障害の分類、フィンク)				講義
5	生活機能障害のアセスメント(生活機能施用外と日常生活動作/居住環境)				講義
6	身体の一部を喪失した成人の心理・社会的特徴と看護				講義
7	障害に対する受容と適応への看護(補助具・自助具の活用、心理的葛藤への援助)				講義
8	多職種連携と社会資源の活用/社会参加への支援				講義
9	生活基本行動レベルのセルフケア再獲得(脳血管障害患者)				講義
10	家庭におけるセルフケアの再獲得(脳血管障害患者)				講義
11	役割遂行に関わるセルフケアの再獲得と維持(関節リウマチ患者)				講義
12	職業生活に関わるセルフケアの再獲得(脊髄損傷患者)				講義
13	地域生活や余暇生活に関わるセルフケアの再獲得(中途視覚障害者、網膜剥離、白内障)				講義
14	セクシャリティに関わるセルフケアの再獲得(乳がん)				講義
15	試験、まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b> 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					

科目番号: 57

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	健康課題と共に生活する人を支える看護				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
					看護師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器、[3]循環器、[4]血液・造血器、[5]消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝、[8] 腎・泌尿器、[14] 耳鼻咽喉(医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)					
<b>目的</b> 慢性疾患を持つ成人が健康課題と共に生活することを支えるための学習支援と健康管理支援について学ぶ。					
<b>目標</b> 1. 成人に特有な健康課題の特徴を理解し、健康の保持増進、疾病の予防にむけた看護が理解できる。 2. セルフマネジメントの基本的な考え方を理解し、慢性疾患とともに生活する成人への支援方法が理解できる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	セルフマネジメントの考え方(問題解決、意志決定、自己効力感)				講義
2	内分泌機能障害のある患者の看護(甲状腺機能障害)				講義
3	内分泌機能障害のある患者の看護(糖尿病)				講義
4	循環器障害のある患者の看護(心不全)				講義
5	造血器障害のある患者の看護(白血病)				講義
6	消化機能障害のある患者の看護(上部消化管腫瘍)				講義
7	消化機能障害のある患者の看護(下部消化管腫瘍、炎症性疾患)				講義
8	肝機能障害のある患者の看護(肝炎、肝硬変)				講義
9	呼吸機能障害のある患者の看護(気管支喘息)				講義
10	呼吸機能障害のある患者の看護(慢性閉塞性肺疾患)				講義
11	排尿機能障害のある患者の看護(腎がん・膀胱がん・腎・尿路結石)				講義
12	透析を受ける人の看護(腹膜透析、血液透析、合併症)				講義
13	感覚器に障害のある患者の看護(突発性難聴、メニエール、副鼻腔炎)				講義
14	がん患者の社会参加への支援				講義
15	試験、まとめ				講義
<b>評価方法・評価基準</b>					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					

科目番号: 58

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	終末期にある人を支える看護				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	後期		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院)</p> <p>百瀬千尋編著 看護学生のためのレポート&amp;実習記録の書き方 第2版(メヂカルフレンド社)</p>					
<p>目的</p> <p>終末期にある人の全人的な苦痛の緩和と、その個人が持つ力を最後まで支え、希望を実現できるような看護を学ぶ。終末期にある人を取り巻く家族のニーズを理解し、「人が生きる意味」を問い続ける姿勢を養う。</p>					
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある人の全人的な苦痛の緩和について理解できる。</li> <li>2. 終末期にある人の意志決定を支え、個人が持つ力を支える看護について理解できる。</li> <li>3. 終末期にある人を取り巻く環境、家族のニーズを理解できる。</li> <li>4. 臨終時の看護(エンゼルケア)について理解できる。</li> <li>5. 自己の死生観に目をむけ、人が生きる意味について考え、言語化できる。</li> </ol>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	人の生命、死と医療・終末期にある人の特徴(キューブラ・ロス 死にゆく人の心理過程)				講義
2	終末期にある人の意思決定を支える関わり(患者の権利、家族の権利、患者・家族との対話)				講義
3	人の死と緩和ケア(緩和ケアとは、療養と生活の場、チームアプローチ、患者との関係確立)				講義
4	人の死と緩和ケア(全人的苦痛とは)				講義
5	生命の維持と全人的苦痛の緩和(身体的苦痛の緩和、合併症や二次感染の予防、緩和)				講義
6	生命の維持と全人的苦痛の緩和(日常生活行動への援助、精神的苦痛の緩和)				講義
7	家族の援助について/既得・臨終時の看護(エンゼルケア)				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験80%とし、レポート20%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 59

分野	専門分野(成人看護学)				
科目名(必修)	成人期にある人の看護過程				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器、[5] 消化器(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) リンダJ. カルペニート著 黒江ゆり子監訳 看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)					
<b>目的</b> 成人期に多く見られる代表的事例を用いて演習を行い、急性期と回復期の看護過程を展開する能力を養う。					
<b>目標</b> 1. 成人各期の健康課題の特徴や動向をふまえ、慢性疾患の患者の看護展開ができる。 2. 全身麻酔下で手術療法を受ける患者の看護展開ができる。					
<b>授業計画・授業内容</b>					
回	授業内容				授業方法
1	慢性期について、事例紹介と看護過程の展開について				講義・演習
2	事例演習について、患者記録の書き方、記録用紙の説明/グループワークの進め方				講義・演習
3	関連図の書き方				講義・演習
4	11パターンのアセスメント(ゴードン)				演習
5	アセスメント・関連図・看護診断の発表会				演習
6	看護計画の立案				演習
7	看護計画発表会				演習
8	看護経過記録について				講義・演習
9	看護要約について				講義・演習
10	手術を受ける患者の事例展開/術後の患者の状態/観察視点と実際				演習
11	グループワーク・11パターンのアセスメント/術後の環境整備(術後ベッドの作成)				演習
12	アセスメント・関連図の書き方				演習
13	看護診断の発表会				演習
14	看護計画の立案/離床の援助				演習
15	看護計画発表会/経過記録の書き方/看護要約の書き方				講義・演習
<b>評価方法・評価基準</b>					
各レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
<b>その他</b>					
小グループで事例をもとに看護過程を展開します。 《参考書》・百瀬千尋編著 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方 第2版(メヂカルフレンド社)					